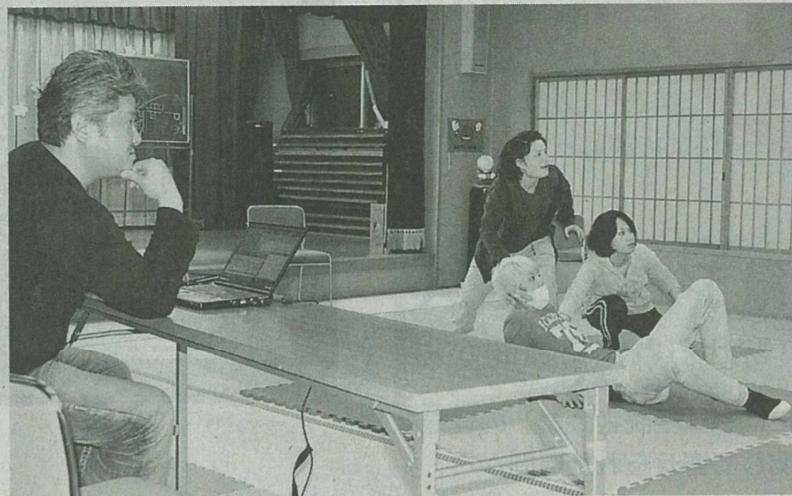


真剣な表情で劇団員の演技をチェックする「劇団●天八」の福満宏之代表（左端）＝兵庫県尼崎市内で



# 福島の採石場に取材

## 「イシフク物語」上演

が脚本・演出を務める。劇団が震災をテーマにするのは、阪神大震災で被災した酒蔵の復興を描いた「酒蔵ものがたり・命の水」に次いで2作目だ。

う構想が持ち上がり始めた。

こうした姿を見た福満さんは、テーマパークの参考に聞いていた同社の歴史と、福島の現状を伝える演劇を思い立ち、昨秋から約半年かけて脚本を書き上げた。

あきらめずに生きていくことの大切さを伝えたい」と話している。

月1日、大阪市東淀川区の市立青少年センターで上演される。今も風評被害や避難生活に苦しむ福島の被災者に演劇を通してエールを送る。

んにイシフクの望月威  
男会長(71)と望月秀康  
社長(41)が2011年  
1月、川内村で採れる  
銘石「滝根みかげ」の  
PR方法を相談したの  
がはじまり。その中で、  
採石場をテーマパーク  
化して一般の人々に石材  
の切り出しを見てもら

つた福満さんに秀康  
社長は「テーマパーク  
はあきらめません」と  
告げた。  
同年9月に採石を開  
業。原発事故の風評被  
害は深刻で、現在も売  
り上げは震災前の半分  
以下だが、社員を一人  
も解雇せず、経営を続

生直後に、仲間の石工ら約200人と静岡から東京の被災地に手弁当で駆け付けて約1年間、復興に従事したエピソードや、太平洋戦争後に焼け野原となつた町の復興に当たつた石屋の姿を描いた。

5月31日と6月1日東淀川

# 大災害に立ち向かう姿描く

も操業を停止。現地社員13人の多くが県外へ、関東大震災（1923年）で、威男さんの父松二さんが震災発生などに避難した。しかし、直後に連絡を取り、日本大震災だけでない